

米ミシガン州フリント市と言え  
ば、腐食した水道管から鉛が溶け  
出して住民への水の供給が絶たれ  
オバマ大統領が二〇一六年に「非  
常事態宣言」を発するまでの騒ぎ  
になったことで記憶に新しい。

昨年四月にはようやく「水質改  
善完了宣言」が出されたが、住民  
が州を相手に起こした訴訟は現在  
も続いている。そして今年二月、  
また州を相手取っての別の裁判が  
始まった。環境保護団体が、ミネ  
ラルウォーター用に水源からの採  
水増大を許可した州の決定に異議  
を唱えたのだ。許可を得たのは、  
スイスに本社がある世界最大の食  
品・飲料会社で、七十以上のブラ  
ンドのミネラルウォーターを販売  
しているネスレに他ならない。

フリント市から北西に約百九十  
キロ離れたオセオラ郡に、ホワイ  
ト・パイン・スプリングスという  
水源がある。ここで操業していた  
ネスレが毎分約九百六十リットル  
から一千五百四十リットルまで  
一・五倍以上も汲み上げ量の増大  
を申請し、州当局から許可を得た  
のは昨年四月のこと。その前年に  
地元紙が「郡内の川の水量が低下

# ネスレ「水ビジネス」が世界の災厄に

## 「大量採水」が脅かす人命と人権

し、環境に影響が出ている」と報  
じたこともあり、多くの住民は決  
定に反発。州に八万一千八百六十  
二人の意見が寄せられたが、賛成  
は七十五人だった。

これについて「ニューヨーク・  
タイムズ」(電子版は今年九月十  
五日付で、「フリントの住民は、  
ネスレが年二百ドルというタダ同  
然の金額で水を手に入れながら、  
自分たちは今も汚染された水の高  
いツケを払わされている」と、州  
内の複雑な事情を解説している。  
だが、生活に不可欠の水を得るの  
に困難をきたしている住民がいる  
一方で、その水をネスレが制限も  
なさそうに採水できるのみならず、  
環境にも悪影響を与えているとい  
うミシガン州の例は、実は世界各  
地で起きている問題でもある。

### 欺かれた住民が犠牲に

パリから東に三百キロ以上離れ  
た田園地帯に位置するヴィッテル

村。温泉が名物のフランスのこの  
小さな村の存在は知らなくとも、  
名は広く行き渡っているはずだ。  
欧州でネスレのミネラルウォーター  
―主力商品であるヴィッテルのブ  
ランド名は、採水地のこの村から  
きているからだ。だが今や村にと  
つて、この商品の存在は疎ましく  
なっているかもしれない。

政府の調査では、この三十年近  
い間に採水地周辺では十メートル  
近く地下水水位が低下。今夏には村  
の水が足りなくなり始め、あわて  
て十二キロもの長さの給水パイプ  
を設置して、周辺自治体から援助  
を仰ぐという事態に陥った。だが、  
ネスレは採水を止めていない。

しかし米国やフランスと違い、  
水道のインフラ自体が未整備な  
国々では、ミネラルウォーターの  
採水が住民の命や健康にかかわる  
場合がある。その悪例とされるの  
が、西アフリカのナイジェリアだ。  
同国では汚染された水が原因で年

に七万三千人も死亡するが、ネス  
レが中部のマンデレジという村に、  
ミネラルウォーターの工場を稼働  
させたのは二〇一六年だった。

ネスレの発表によると、「地元  
住民に安全で無料の水へのアクセ  
スを提供するのが第一の優先順  
位」と人道団体のような口ぶり。  
ところがナイジェリアの非営利調  
査機関「調査報道のための国際セ  
ンター」(ICIR)が現地を訪れ  
て今年四月に発表した長文の記事  
によれば「住民は依然、慢性的水  
不足と闘っており」、ネスレが村  
内に設置した給水施設からは「水  
が出ない状況」にあるという。

ナイジェリアは他のアフリカ諸  
国と同様、多くの国民が貧困層で  
占められており、高価なミネラル  
ウォーターが買えるのは、ほんの  
一部だけだ。このため、ネスレに  
対し「住民を犠牲にした水で利益  
を得ている」と、ナイジェリアで  
の採水中止を求める国際署名が現

在、欧米で取り組まれている。こ  
れに似た例が、水不足がやはり深  
刻なパキスタンのパティ・デイワ  
ンという村だ。

すでに一三年に一部の報道によ  
つて世界に知られるようになり、  
大きな反響を呼んだこの村では、  
ネスレが人気ブランドの「ピュ  
ア・ライフ」を生産するため採水  
を始めた結果、住民が利用してい  
た水が急速に不足し、子供たちが  
ヘドロのような不衛生な水を口に  
しなければならなくなったという。  
国連の推計によれば、現在世界  
で清潔な水の入手に困難をきたし  
ている人々は約二十一億人に達し、  
二〇三〇年までに世界の水需要が  
供給を四〇%も上回るといわれて  
いる。

### 国連を利用する狡猾

こうした状況下でも、米国です  
ら行政の対応はミシガン州のよう  
に及び腰だが、その悪例に、一  
年から六年間も大干ばつに苦しめ  
られたはずのカリフォルニア州が  
加わった。米農務省林野局は昨年  
六月、ロサンゼルスから車で東に  
一時間あまりのサンバーナーデー

ーノ国立森林公園の水源に採水権  
を有するネスレの申請を受理し、  
今後三年間、年に六億一千三百二  
十万リットルを汲み上げる許可を  
与えたのだ。

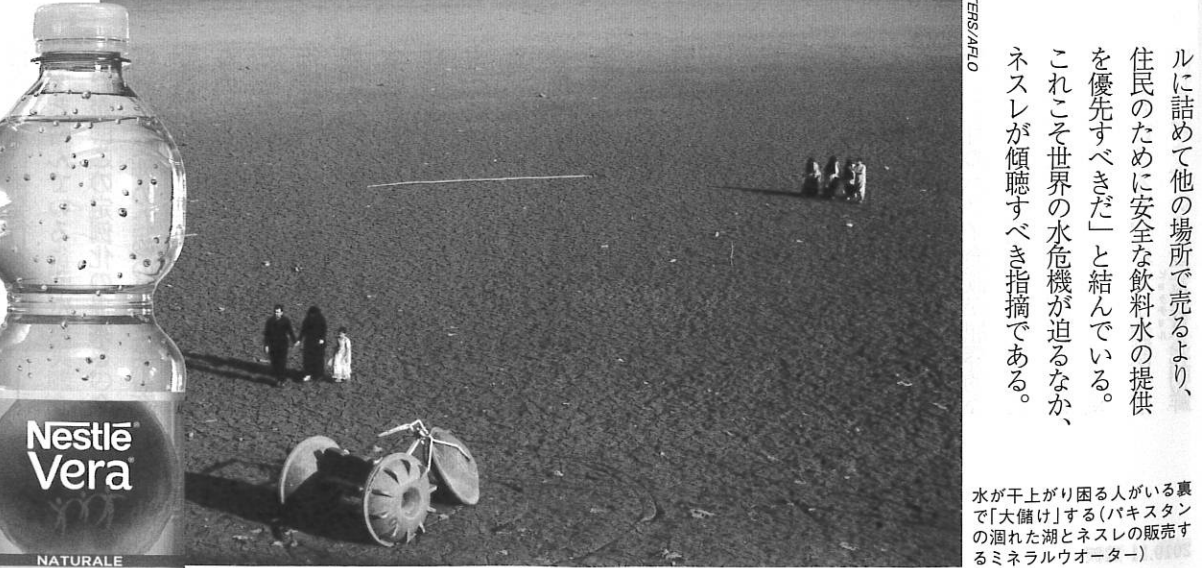
このため、州の内外から「干ば  
つなのに水資源の保護を無視する  
のか」との批判が起きたが、ネス  
レ米国支社等の関連企業は、判明  
しているだけでも連邦議会のロビ  
ー活動に一三年だけで計四百八十  
万ドルを投入。さらに環境や消費  
者保護といった委員会に属する議  
員を中心に、下院で十六人、上院  
で八人に手厚く献金している。

こうした「政治の影」は、国連  
でも垣間見える。国連は、二〇三  
〇年までに「水と衛生の利用可能  
性と持続可能な管理をすべての人  
に確保する」という「2030ア  
ジェンダ」を提起。その支援団体  
として、「2030ウォーター・  
リソーシズ・グループ」(WRG)  
なる団体が立ち上げられた。だが  
その内部には、ネスレやコカ・コ  
ーラといった巨大ミネラルウォー  
ター企業が顔を揃えている。当然  
国連が商業用の大量採水を規制す  
る動きを示した形跡はない。

ロイター通信は昨年十一月、ネ  
スレがWRGに連なるメーカーと  
共に、ブラジルの世界最大級の水  
資源・グアラニー帯水層の買収を  
計画していると報道。ネスレは否  
定したが、米国の国際問題イ  
ンターネットサイト「Min  
t Press News」も

昨年二月の段階で、すでに「ブ  
ラジルでは一六年から、ネス  
レ等の巨大企業がグアラニー  
帯水層を開発するためのロビ  
ー活動が進んでいる」と伝え  
ている。

ネスレは、元CEOのピー  
ター・ブラベックが〇五年、  
当時に映された映画で「人間  
に、水への権利があるという  
のは極端な意見だ」「水は食  
料品で、市場価値があるべき  
だ」と公言して物議をかもし  
た。そのためか現在は、「水  
は人権」と強調している。だが  
各国のめぼしい水資源を買  
収しまくる姿勢は、「人権」  
より「市場価値」を優先して  
いるように映る。



水が干上がり困る人がいる裏  
で「大儲け」する(パキスタンの  
潤れた湖とネスレの販売す  
るミネラルウォーター)